

第4回 神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

平成 29 年 11 月 12 日 15:00～16:00

(審査会長から開会の宣言)

- ・平成 28 年度かながわボランティア活動推進基金 21 助成終了事業成果報告会を開催。

(成果報告会)

【協働事業負担金事業】

- ・(特非)湘南DVサポートセンター
「地域と学校によるいじめ防止推進事業」
- ・NPO法人かながわ311ネットワーク
「児童・生徒の防災教育推進事業」
- ・(特非)かながわ避難者と共にあゆむ会
「県内避難者との協働による支援ネットワーク構築事業」

(講評)

(小松委員)

基金 21 は 4 つの部門に分かれており、部門に優劣は無いのは言うまでも無いところだが、皆様が行ってきた協働事業負担金の事業は期間、予算規模が最も大きく、しかも、県との協働、スクラムを組むという点で期待が非常に大きいものと考えている。審査会のメンバーは様々なバックグラウンドを持っており、それぞれの活動に対する評価も実は異なります。皆様の活動に対する評価も異なるというのが実情だが、そんな中、本日発表していただいた 3 団体をはじめ、協働事業負担金に採択された団体の皆様の活動は、高く評価されるべきであると考えている。皆様の活動報告を聞かせていただいていることは、情熱をお持ちだということ。人間関係が希薄になり、困っている人を見ても、知らないふりをするようになってきたと個人的には感じてきているが、湘南DVサポートセンターさんは、いじめを学校だけの問題とせず、社会で共有していこうという活動、かながわ311ネットワークさんの活動は、災害は日常の備えが大切だということを学校で教えていこうという活動、かながわ避難者と共にあゆむ会さんの活動は、大震災で神奈川

に非難してきた人達に寄り添うと共にネットワークを作っていく活動、これらの活動自体はもちろん、希薄になった人間関係の再構築にも必ずや力を発揮すると信じている。協働事業負担金は最長でも5年という期間があるが、それに関わらず、今後10年、20年と活動を続けていただきたい。

【ボランティア活動補助金事業】

- ・ (特非) まなの樹
「発達障がい児に関わる教科学習教材データベース化事業」
- ・ (特非) ABCジャパン
「外国につながる子ども・若者の教育機会の保障のためのプロジェクト」
「子どもの権利に関する小冊子作成事業」
- ・ NPO法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ
「子どもの権利に関する小冊子作成事業」

(講評)

(高橋委員)

皆様の事業においては、昨今の社会的に大きな課題に対してその解決のために、子どもや多くの若者一人ひとりに寄り添うことを大事にして、将来の可能性を切り拓くためのとても大事な事業であると認識している。まなの樹さんについては、お子さんの困り感を大事にしながら、気の遠くなるようなデータベースの作業を目の前にいる子ども達のために、一生懸命努力されているんだと改めて実感している。今後は学校教育への発信もがんばっていただくよう、微力ながら応援している。ABCジャパンさんは多言語、多文化の中で丁寧なサポートされていると実感した。さらに発表の中でもあったが、日本の学校への橋渡しをして、全員が志望校へ合格されたという素晴らしい結果となって、本当に皆さんの努力から子ども達の未来が、将来の選択肢を含めて広がっていただいたなど、あらためて感謝申し上げます。子ども達の笑顔の写真もあったと思うが、とても印象に残っている。子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽさんに関しては、不登校の子ども達の権利を丁寧に支えられる事業ということで、非常に難しい課題でもあるが、全ての子どもに生きる希望と、将来への夢が持てる環境づくりをスローガンに掲げられながら、より多くの子どもや保護者の方の支えとなって、環境づくりをされていることに改めて感謝申し上げます。こちらの発表の中でも子ども達の笑顔がとても印象に残っている。最後に三団体の皆様におかれましては、これからも継続、

発展する事業として、子どもも応援していきたいし、子どもや若者の事業ということであれば、公共のところに入っていき、イノベーションを起こす必要もあると思いますので、県にも様々な形でサポートいただいて、子ども達や若者のために先駆者となっていただきたい。応援しています。ありがとうございました。

【ボランティア団体成長支援事業】

・ 関内イノベーションイニシアティブ(株)

「NPO支援機関の専門力強化および、NPOと支援機関のマッチングによる中長期計画策定支援」

(講評)

(柴田委員)

今日の発表を拝見して、NPO法人は、何をしたら強くなれるのか、何ができるのか、そういう事が明確になっていないNPO法人が多いのではないかと思います。そこを具体的に研修やワークショップを行いながら、それぞれの団体の強み、弱みを確認し、目指す先を明確に理解してもらい素晴らしい取組みを応援していきたい。年度末の成果発表会を楽しみにしている。

(全体の講評)

(長坂会長)

成果報告を聞いて、感慨深かった。私達は生まれてきて、自分だけで生きているわけではなく、皆と一緒に生きているので、どうやったら幸せに生きられるのかを私たち考えているのだと思う。その時に私たちの生活を助けてくれる大きな部門がセクターで、一つは政府であり自治体。二つ目は、働いて給料を得て生活しているので、会社であり企業。三つ目は私達が幸せであるために、市民社会のセクターが絶対的に必要である。それはNPOセクターと言い換えても良いかもしれないが、ここにいる私達は三つ目の市民社会セクターの中に属して、一生懸命に皆が幸せになれる社会を作りたいと思っている。市民社会セクターの一番の特色は、社会の変化の中でどんどん人々が求めているニーズが変わってきている。その新しいニーズに最先端で気付いて、対応しようとしているのが皆さんだと思う。政府や行政はニーズが変わったからといって、対応力はない。企業も同様で、市民活動セクターがどうやって生き生きと活動しているのか、それを市民社会力と言って良いと思うが、大きく依存していると思う。今日の成果報告を聞いて一番感じたことは、

日本の中で生きている子ども達が、社会構造の変化の中で苦しんでいる。最先端のところでニーズがあり、それを皆さんが一生懸命一緒に生きていこうとしている。そういう人達が、この空間と一緒に居るという事を強く感じた。発表を振り返ると、湘南DVサポートセンターは、子どもは安心して健康で幸せに生きる権利がある、二つ目は子供と共に生きるフリースペースたんぽぽの、全ての子ども達は学校を休む権利がある。これらは、子どもの権利条約というものを私達は知っている。しかし、私達は子ども達の権利とは何か、という事を具体的に考える段階にきた。まなの樹は、学習に困った感がある子ども達、ABCジャパンは、外国につながる子どもの教育の機会に取り組んでいる。311ネットワークは子ども達が、災害が発生した際、どうしたら災害に遭わずに済むか、という事を最先端で取り組んでいる。福島避難者と共にあゆむ会は、突然自分達の生活が根こそぎ取り上げられてしまう、実質的に子どもの状態に置かれた人達にどうしたらよいか、という事に取り組んでいる。日本に居る子ども達がこんなに苦難に直面していることに今更ながら気付いた。子ども達におきているニーズに、政府や企業は対応出来得ないため、私達市民社会全体が最先端で柔軟に対応していることを、報告を聞きながらとても感じた。今回卒業されたみなさんにとっては、活動が益々広がって全国展開まで広がっていただくと良いと思う。今日は本当にありがとうございました。

(閉会)